



メッセージ ~ 『ECHO』100号に寄せて~

産業医科大学 名誉教授 白幡聡先生

私が編集に参画した頃、『ECHO』は患者さんとそのご家族が血友病を学ぶための唯一の情報誌でした。今では、情報だけでしたら、インターネットで簡単に入手できるようになりました。一方で、治療が多様化する中、血友病の治療では、セルフマネジメントがますます重要になっており、本誌は患者さんが血友病と上手につきあっていくのに必要な知識と意欲が得られるツールになってください。

聖マリアンナ医科大学 名誉教授 瀧正志先生

3代目の編集委員長として100号の記念号を迎えることができ大変光栄です。最近の血友病治療の進化は目覚ましいものがありますが、解決すべき新たな課題も生まれてきております。『ECHO』の役割は、今後もブレることなく“患者さんにご家族のため”に“患者さんにご家族”を元気づける情報誌として進化・継続することを祈念致します。

医療法人財団 荻窪病院 血液凝固科 臨床心理士 小島賢一先生

『ECHO』の軸足が希少疾患の啓発から患者さんへのエンパワーメントへと動いたように、血友病医療は大きく進歩してきました。もちろん保因者、高齢化を迎える血友病性関節症、血栓、遺伝子治療など、様々な課題が残っていますし、新たな問題も発生してくるかもしれませんし、完治させる薬ができるかもしれません。さてさて『ECHO』200号はどんな記事が掲載されているのでしょうか。見てみたいものです。

くらて病院 看護師 小野織江 様

『ECHO』100号おめでとうございます。私が血友病看護に携るようになった頃は『ECHO』はナースの大事な教科書的存在でした。これからも『ECHO』がHemophiliacと othersの為の良き情報誌として、ますます発展していきますよう、お祈り申し上げます。

聖マリアンナ医科大学病院 看護部 師長 吉川喜美枝 様

この度は、『ECHO』100号ご出版おめでとうございます。我々編集委員は『ECHO』を「患者様がこの冊子を読んで元気になれる」をコンセプトに医師、看護師、臨床心理士、バイエルスタッフの方々に編集して参りました。患者様、ご家族の皆様大変喜ばれております。長く続けられてきた成果が良き形になりましたこと、お喜び申し上げます。編集に携われた事に深く感謝申し上げます。

Congratulations!!



監修

聖マリアンナ医科大学 小児科学 名誉教授 瀧正志
聖マリアンナ医科大学病院 看護部 師長 吉川喜美枝

医療法人財団 荻窪病院 血液凝固科 臨床心理士 小島賢一

バイエル薬品株式会社